

【青葉区】令和元年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和元年6月3日(月) 午後2時30分から午後4時まで
場 所	青葉区役所4階 401～403会議室
出席者	【座 長】大貫憲夫議員 【議員：6名】行田朝仁議員、田中ゆき議員、平田いくよ議員、藤崎浩太郎議員、山下正人議員、横山正人議員
	【説明局員（青葉区）：33人】 小出重佳 区長、岡田勇輔 副区長、 勝島聡一郎 福祉保健センター長、 吉田雅彦 福祉保健センター担当部長、 上田祐一郎 青葉土木事務所長、 湧上正基 青葉消防署署長、 ほか関係職員
議 題	(1) 「令和元年度 青葉区に係る予算のすがた」について (2) 令和元年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業 執行状況について (3) 主要事業について
発言の旨	行田議員 川崎の殺傷事件（令和元年5月28日に神奈川県川崎市多摩区登戸で発生した通り魔殺傷事件）後、1週間経過するが、本局から確認や指示は来ているか。
	鈴木地域振興課長 市民局地域防犯支援課から、事件後の区の対策について何か行ったかという確認があった。青葉区では、日頃より青色防犯パトロールを実施しており、通常のルートの中で注意喚起している旨の回答をしている。
	行田議員 区役所が中心となり、ひきこもりの支援者などの関係者を集めスクランブルで会議を開いたり、対策を議論することはないのか。
	小出区長 現時点においては、その問題に焦点を当てた関係者会議などは行っていない。学校・警察・行政が一体となり、鉄道やバス等の事業者や地域の皆さまにも協力を得ながら、街全体で見守りの目をさらに増やしていくということが大事だと考えている。関係局からも情報収集を行い、有益な知見も得ながら検討していきたい。
	行田議員 中高年のひきこもりという問題が社会問題化してクローズアップされている。市全体で実態調査をやるのが理想だが、それが難しいのであれば、青葉区独自で調査を行い、今後の施策に活かす考えはないか。
	小出区長 中高年のひきこもりやの「8050問題」は、区としても非常に重要な問題であると考えている。実際に、区役所のケースワーカーやケアプラザの職員が相談を受ける中で、このようなケースが判明することもあると報告を受けている。そのような家庭に寄り添った支援について、大きな課題だと受け止めている。
	松永高齢・障害支援課長 29年度の横浜市の実態調査では、ひきこもり状態にある40～64歳までの方の推計人数は約12,000人とされているが、あくまで推計であり、区ごとの実態の把握は難しい。 区で高齢者支援でケースに関わっていく中で子世代の中高年の支援を要する状況も判明してくるため、親の高齢者側からのアプローチが良いのか、子世代の背景にある障害や生活支援等の側面からのアプローチが適切かなど、案件ごとに状況は異なるため、区内各課で連携をしながら対応している。

行田議員	<p>ひきこもり状態の区民の実態を把握してほしいという要望が、この街では相当あると見受けられる。ご検討いただきたい。</p> <p>一方で、5月には大津市で散歩中の保育園児らの列に車が突っ込み、16人が死傷した事故があった。今、保育所のニーズが高まっている中、送迎の便の良さから駅近の保育園も多いが、子供が散歩に出るときに、自動車が走っている危険な中を歩かねばならないこともある。散歩ルートの報告はおそらくあるのだと思うが、その安全性をしっかりと確認しているのか。</p>
小出区長	<p>今回の大津の事故を受け、横浜市独自の基準で抽出した交差点において、緊急一斉点検を実施予定である。青葉区内では20カ所ほどの交差点の点検を予定している。</p> <p>市内で同様の事故による被害が発生しないために、地域や子供関係の施設関係者の意見も頂戴しながら、検証し対応していきたい。</p>
吉田センター 担当部長	<p>区内の公立私立の保育園に対し、日ごろの散歩コースおよび、その中で危険な箇所はどこかといった点の把握についても各園で行っている旨を確認している。日常的に点検を行っているため、現時点で特に散歩コースを変更したという報告は受けていない。</p> <p>公立各園でも私立の保育園でも同様の作業を適宜行っていると報告を受けている。</p>
上田土木事務 所長	<p>市内の交差点を洗い出し、256カ所の一斉点検の実施について記者発表を行った。歩行者が多く集まる信号交差点の中から、鉄道駅の改札口から半径100メートル以内かつ交差道路が横浜市管理道路である交差点や、過去10年間の事故の多い交差点を洗い出して、緊急点検を実施していく。安全対策が必要と判断した交差点については、警察と連携して対策を順次講じる予定である。</p> <p>この点検対象となる交差点以外については、スクールゾーン協議会がこれから開催される時期となるため、保護者や警察の協力も得ながら対策を検討していきたい。</p>
行田議員	<p>点検を着実にやっていくことは勿論大切だが、その評価の基準が大事だと考えている。現在の対応が適正かどうか、本当に安全を保てるのか、区役所の目できちんと判断してもらいたい。</p>
藤崎議員	<p>区民1万人あたりの区役所職員数が、昨年度だと港北が14.2で青葉が14.5という状態だったものが、港北が14.5にふえ、青葉が14.4に減っているが、これは何を要因にしているのか。</p>
区長	<p>未確認のため、確認しご連絡させて頂きたい。</p>
藤崎議員	<p>戸籍課、保険年金窓口で混雑対策ということでオペレーターの設置を行っているが、効果の検証は行われているか。</p>
区長	<p>この事業は、戸籍課で行っていたものを保険年金課の混雑対策にも拡大した経緯がある。効果としては、非常に多い電話による問合せ対応がオペレーターを設置することにより、その分、職員による窓口対応が可能となり、窓口の待ち時間の抑制につながっている。そのような点で非常に効果が上がっており、職員からもその旨の報告を受けている。</p>
藤崎議員	<p>シェアリングエコノミー事業で学生向けシェアハウスモデルに取り組む中で、転出入の多いはずの4月の段階で入居者がなかったということについては、こういった課題があると考えているのか伺いたい。</p>
續橋区政推進 課担当課長	<p>応募がなかったため、はっきりした理由というのはつかめていない。シェア居住であるとか、条件とした、地域活動に対する不安などというものがあったのではないかと推定される。現在は、さらに入居条件を緩和して、範囲も六大学まで含めて情報提供をお願いしている。</p>

藤崎議員	<p>入居条件の問題なのか、学生向けのシェアハウスというものにどれだけニーズがあるのかという視点も含め、総合的に検討して頂きたい。</p> <p>障害者の自主製品販売促進事業が新規事業としてあるが、具体的に何回くらい、何か所でやるのか等伺いたい。これまでも地区センターまつり等で、障害者の作業所の商品が販売されてきている中で、どのように違いを出していくのか。</p>
松永高齢・障害支援課長	<p>従来の地区センターなどでの販売とは異なり、品評会のようなコンテスト、フードプレゼンテーションのようなものを年に1回実施することを予定している。参加者から試食の感想を頂いたり、製品の製造などに見識のある方のアドバイスをもらうということで、品物に対する魅力を高めていく取組みを考えている。</p>
平田議員	<p>きらきらマップについてだが、ここに掲載されていない事業者があるかと思う。なぜ全部載っていないのか理由を伺いたい。</p>
椎葉こども家庭支援課長	<p>現在、きらきらマップは試行的な作成状況であり、地域で実際に障害をお持ちの方にご覧頂き、アンケートをとっている段階である。事業者全てが掲載されたものとしては、市が発行している「障害福祉のご案内」という厚みのある冊子の用意がある。そのため、こういった形で掲載するかは、自立支援協議会の児童支援部会等で皆様と相談をしながら検討している。</p>
平田議員	<p>青葉区では、子供の障害に関する相談は何件ぐらいあるか。また、相談支援の対象者は何人くらいと想定しているか。</p>
椎葉こども家庭支援課長	<p>愛の手帳など障害手帳交付数は毎年約1,000件程度あるため相談件数はそれ以上と考える。さらに現在手帳を所持していない方でも相談ニーズは一定数あると認識している。</p>
平田議員	<p>掲載される情報が少ないと、サポートが必要な人に届かない可能性がある。必要な情報と思われるので、多くの事業所の掲載を検討して頂きたい。</p>
吉田センター担当部長	<p>現状は試作版ということで、今年度、改めてつくるときに、どういうものが良いのかご覧いただいた方々と相談して決めていきたい。</p>
平田議員	<p>支援が必要な方の数も増加している。是非、重要な事業と位置付け、進めて頂きたい。</p>
椎葉こども家庭支援課長	<p>大変重要な事業であると認識している。そのため、一方的に区役所のみで作るのではなく、実際に使用する方や、支援をしている事業者の意見も踏まえて良いものにしていきたい。今年度、試作をしたものを利用した方たちのアンケートも取り、修正をしていきたい。</p>
平田議員	<p>保護者からは、サービスの利用計画の作成が出来ずに困ったという声や、保護者がセルフプランを立てるといことが大変という声を聞いた。このような情報提供や相談支援がさらに増えると良い。</p>
椎葉こども家庭支援課長	<p>「サポートファイル かけはし」というものも作成している。障害をお持ちの方が、経過や支援内容を記録し切れ目なく乳幼児期から学校等へと継続して一貫したサポートができるツールとして広げていきたい。</p>
田中議員	<p>健康づくりPR事業のリーフレット作成では、新規で予測される中での5,000部と決め、その後、評価をした上で増刷を考えているのか。</p>

滝本福祉保健課長	5,000という数字は、ウォーキングマップを庁舎の1階でラック配布しているが、年間で区民の方の手に取って頂く部数が5000部程度のため算出している。必要に応じて、増刷も検討している。
田中議員	災害時のペット対策として、ペット防災手帳300冊配布とあるのは、前年度の評価をしたうえで配布数を検討しているのか。ペットを飼われている方は区内に多くおり、予防接種の会場配布に留まらず、必要な方に必要な情報・部数が届くように、対策を検討されているか。
松野生活衛生課長	狂犬病予防注射の実施時に配布した数が、300部である。印刷は、2年に一回程度、約2,000部印刷している。 今回の予防接種会場以外は、地域防災拠点の防災訓練の際やペット防災の講演会など、様々な機会を捉えて配布を行っている。
田中議員	区役所に足を運ばないとなかなか手に入らないものもある。完成度が高いリーフレットが多く、よい情報提供が行われていると思われるので、発行部数を増やし、多くの利用者や区民の方々に手に取ってもらい、活用できるよう検討頂きたい。
小出区長	ホームページ上でダウンロードが可能とするなど工夫をしていきたい。ニーズがあるものについては区役所だけではなく、区民利用施設でも施設の特性に応じて配布していきたいと考えている。
横山議員	先ほどの区の職員の数は、全区で一番少ないとのことだが、多ければいいというのではない。効率的に運営されていると理解しているので、他区にはもっと頑張れと、区長会でも言ってもらおうとよい。 聞きたいことは4点あるが、まず区制25周年に関連する事業は、どういうことを行うのか。
小出区長	ありがとうございます。区制25周年に関連する事業としては、自治会・町内会の活動を取りまとめて紹介する冊子の作成、フォトコンテストの実施、環境の講演会、道路愛称の募集等を進めている。また、区民まつり時に記念式典を行う。 区の予算に加えて局の予算を活用し、青葉マラソンや芸術祭においては、オリンピック・パラリンピックあるいは横浜音祭りなどの関連メニューと連携をとり、盛り上げていきたいと考えている。
横山議員	横浜型地域貢献企業について、審査費用の一部を申請者が負担することとなり、申請のハードルが1段上がってくる。地域貢献企業がこれから伸びるかどうかが厳しい局面でもある。区民が横浜型地域貢献企業を選べる仕組みづくりを行うのが良いのではないかと。企業側にも積極的に地域貢献企業を取ってほしいと感じられ、相乗効果が期待できる。区としても積極的な支援を考える必要があるのではないかと。
小出区長	地域貢献企業については、地域において非常に大事な企業だと思っている。そのような素晴らしい企業の情報をどのような形で地域の方々に発信できるのか、経済局あるいはIDEC（公益財団法人 横浜企業経営支援財団）に確認し、連携して進めていきたい。
横山議員	公立中学校のクラブ活動について、少子化により教員数も減ったため、顧問の確保が難しく廃部を視野に入れながら募集停止せざるを得ない状況もあると聞いている。教育委員会は動かないようなので、青葉区で中学校長会と相談し、部活動指導員の候補者を区全体で募って、候補者名簿を作成し、各学校に示していけるような仕組みづくりを検討いただきたい。
佐々井こども家庭支援課学校連携・こども担当課長	現状では、学校から推薦された方を教育委員会が任用して指導員が決まっている。長期的な指導等についても面談で確認し採用している点もあると思われる。実現の可否は別として、教員の働き方改革の観点もあるので、校長会で情報共有し、区として何ができるか相談をしてまいりたい。

横山議員	谷本公園の進捗状況について、説明いただきたい。
續橋区政推進課担当課長	谷本公園の北側のエリアの予定地については、地権者への説明に区も同席するなど環境創造局と連携しながら、早期の全面的な用地取得に向けて取り組んでいる。今年4月には、約2270平方メートルの土地の買収が実現した。今後も環境創造局と連携し、残り約0.85ヘクタールの取得が早期に可能となるよう努力したい。
山下議員	拡充となっている地域防犯の支援事業について、市民意識調査の結果を見ると、青葉区民は安全で安心な街を求める意識が非常に高い。振り込め詐欺の対応は、地域振興課でいろいろ検討頂いていると思うが、実際の被害者は高齢者が多いため、高齢・障害支援課とうまく連携をとっていくという考え方はあるか。
鈴木地域振興課長	高齢・障害支援課などの関係課とも情報共有し、防犯のイベント実施やチラシの配布などの連携を更に考えていきたい。
小出区長	警察との連携についても当然ながら実施しているが、私も区役所が地域において様々な啓発を行っている。最近の被害の情報発信については、区役所内の共有も含め常に取り組んでいる。
山下議員	振り込め詐欺のことだけでなく、社会的な問題、課題というのが多様化し、1局だけで解決できるような簡単な問題ではなくなってきている。社会的孤立など、様々な問題が複雑に絡み合っている中においては、地域振興課だけではなく、こども家庭支援課や高齢・障害支援課等とうまく連携をとる必要があるのではないかと。ご検討いただきたい。
座長	道路面の標示や横断歩道のゼブラマークなど、非常に薄くなっているものが多く見受けられる。区民の安全確保のため、区役所としても、調査の要請や実際の整備などを求めて、県や警察に対してアクションが必要だと思うが、どのように考えているか。
上田土木事務所長	センターラインなど土木事務所で対応可能な点については、現地を確認した上で直接対応している。止まれ等の規制表示については我々は手を出せない部分があるため、青葉警察署には、区民の皆さまから頂いたご意見等について必ず伝えている。土木事務所としても現地調査を行っているので、区で対応できないが必要だと思われるものについては積極的に実施いただくよう、今後も所管に依頼していく。土木事務所で対応可能な点は、しっかりと対応していきたい。
小出区長	区民の方は、国・県・警察・市等の所管の把握は難しいと理解している。明らかに国道の部分については速やかに国につなぐが、判然としない場合に土木事務所が現場を確認しながら警察にも働きかけるといったことは常に行っており、今後も区として何が対応可能かという姿勢で臨んでいきたい。